

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	加古川市尾上処理工場	階数	地下1F 地上2F
建設地	兵庫県加古川市尾上町養田字養田	構造	RC造
用途地域	工業地域	平均居住人員	12人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,900時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2022年10月19日
敷地面積	10,957 m ²	作成者	浅井秀樹
建築面積	1,320 m ²	確認日	
延床面積	2,408 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
本施設は加古川市尾上処理工場(汚物処理場)です。騒音・振動・臭気防止及び美観・耐久性の観点から鉄筋コンクリート造とし、処理棟エリアと管理棟エリアは合棟としながらも、機能性のみならず室内環境・美観に配慮したデザインを採用しています。		加古川から近い場所ですが、災害(水害)対策として、建築物設置部は高さ2mの盛り土を施工します。また主要な電気設備機器類はさらに2階以上に設置しており、水害対策を十分考慮した施設設計を行っています。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
処理棟2Fは大きな空間となるため、外壁に窓および屋根にトップライトを設置し昼光を利用して明るい空間となるよう配慮しています。また化学汚染物質の放散の少ない内装材料を全面的に使用することとしています。	事務室の天井高は2.7mとし、休憩室の面積も十分確保しています。また耐震設計として本施設の設計では重要度係数を1.25としています。非常時の給排水対策も検討し、対応しています。また2階建てですが十分な階高も確保して	敷地面積に対して大きな緑化面積を確保しています。また敷地外からの景観を十分考慮して建物を配置し、違和感もありません。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
施設外壁には多くの開閉窓を設置し、トップライトを設置することで十分な自然光を取り入れられる配慮をしています。	給排水設備においては、自動水栓の設置、および節水型小便器の採用により節水対策を考慮しています。また屋根雨水の一部を地下の雨水貯留槽に貯留したのち、ポンプで外構散水に二次利用をしています。	大気汚染防止の観点から本施設内では燃焼機器を使用しておりません。また敷地外の交通にも影響を与えないよう、敷地内に十分な数の来客用駐車場、職員用駐車場、また自転車置き場を設置し、また出入口は道路境界よりもセットバックさせてゲートを設置し、前面道路上の

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される